

1 はじめに

本校は、枕崎市の中心に位置し、全校児童415名の学校である。本年度初めてのN I E実践校となった。新聞を活用することで、学力向上や社会で起きている様々な事象に関心を持つことを期待している。本年度のテーマは、「新聞に親しみ、興味関心をもって主体的に活用する子どもの育成」とし、実践を行った。

2 実践内容

- (1) コミュニケーションタイム（てきばきプレゼン）の実施
- (2) N I Eコーナー（新聞閲覧台・新聞の切り抜きの掲示）の設置
- (3) 授業の実践
- (4) ミニ新聞・はがき新聞の作成
- (5) 新聞社への投稿・コンクールへの参加
- (6) 職員研修の実施
- (7) 保護者への啓発

3 実際

- (1) コミュニケーションタイム（てきばきプレゼン）の実施

本年度より月曜朝の15分にコミュニケーションタイムを設け、児童のコミュニケーションスキルを伸ばすよう実践をしている。その時間に、新聞を活用し、高学年でてきばきプレゼンを行った。週末の家庭学習で新聞から気になる記事を選び、「なぜその記事を選んだのか」、「どう思ったか」、「意見・提案」などをワークシートに記入する。そのワークシートを持ちより、月曜日の朝に30秒間でプレゼンし、その後、自由に記事についての話をするようにした。



【写真1 てきばきプレゼンの様子】



【写真2 てきばきプレゼンの発表用紙】

「申告する、しないはどうしてイートインの税率は変わるの」「制度が複雑で、よく分からない」。枕崎小学校の6年生は毎週月曜、新聞記事をもとに意見を交わす。消費税をテーマにした時は特に活発だった▼気になる記事を読み、知らない語句の意味を調べる。自らの考えを短時間で手際よく伝え、友達の発表を聞く。「読み解く力を育てる」と教育学者の齋藤孝さんが提唱する「てきばきプレゼン」である▼こんな取り組みが広がってほしい、と願わずにはいられない。経済協力開発機構が昨年実施した学習到達度調査で、日本の高校生の読解力低下が際立った。79カ国・地域の中で15位と、3年前の前回8位から順位を落とした▼順位に一喜一憂する必要はないが、文章を正確に理解できないと、問題の意味が分からず、答えにたどり着けない。このままでは全科目で学力低下が進みそうで気がかりだ▼本をよく読む生徒は、そうでない生徒に比べて読解力が高いことも分かった。活字に親しむことに解消の糸口がありそうだ▼新聞や雑誌を読む生徒が各国とも減少傾向なのは何とももどかしい▼教育に新聞を活用するN I Eに取り組む学校からは、言葉をかみ砕き、考えを伝える力が身に付いてきたという声が聞かれる。ネット時代、あふれる情報を見極めるにも読解力は欠かせない。新聞がその助けになればありがたい。

南風録

「申告する、しないはどうしてイートインの税率は変わるの」「制度が複雑で、よく分からない」。枕崎小学校の6年生は毎週月曜、新聞記事をもとに意見を交わす。消費税をテーマにした時は特に活発だった▼気になる記事を読み、知らない語句の意味を調べる。自らの考えを短時間で手際よく伝え、友達の発表を聞く。「読み解く力を育てる」と教育学者の齋藤孝さんが提唱する「てきばきプレゼン」である▼こんな取り組みが広がってほしい、と願わずにはいられない。経済協力開発機構が昨年実施した学習到達度調査で、日本の高校生の読解力低下が際立った。79カ国・地域の中で15位と、3年前の前回8位から順位を落とした▼順位に一喜一憂する必要はないが、文章を正確に理解できないと、問題の意味が分からず、答えにたどり着けない。このままでは全科目で学力低下が進みそうで気がかりだ▼本をよく読む生徒は、そうでない生徒に比べて読解力が高いことも分かった。活字に親しむことに解消の糸口がありそうだ▼新聞や雑誌を読む生徒が各国とも減少傾向なのは何とももどかしい▼教育に新聞を活用するN I Eに取り組む学校からは、言葉をかみ砕き、考えを伝える力が身に付いてきたという声が聞かれる。ネット時代、あふれる情報を見極めるにも読解力は欠かせない。新聞がその助けになればありがたい。

— ≪ 2019・12・13(金) ≫ —

【写真3 南風録に掲載されたてきばきプレゼンの紹介】

(2) N I Eコーナー（新聞閲覧台・新聞の切り抜きの掲示）の設置

P T Aにも協力を呼びかけ、高学年4学級前に手作りの新聞閲覧台を設置し、子どもたちが新聞を広げて、ゆっくりと読むスペースを設けた。昼休みや隙間時間に気軽に読める環境ができたことで、より児童が新聞に親しむ機会が増えた。手作りの閲覧台は南日本新聞でも紹介された。

また、図書館司書による新聞の切り抜きの掲示を行った。朝日小学生新聞から気になる記事をスクラップし、1日に1枚ずつ掲示した。図書室横に掲示してあるので、図書館を訪れる際に足を止めて記事を読む児童も多かった。



【写真4 掲示された切り抜きを見る児童】



【写真5 閲覧台で新聞を読む様子】

(3) 授業の実際

- ① 4年「新聞を書こう」(国語科) 新聞には5W1Hを書くと分かりやすいことや、最初に伝えたいことが書いてあることなどを学んだ。その後学習したことを

生かして、実際に枕崎を紹介する新聞を作成し、薩摩半島と大隅半島で南端交流をしている南大隅町立佐多小学校へ送付した。

- ② 5年「新聞を読もう」(国語科) 新聞の編集の仕方や記事の読み方について学習した。南日本新聞社の方に来校していただき、記事の構成の仕方や新聞の作り方などについて指導して頂いた。

(4)のミニ新聞づくりやはがき新聞づくりの際には、本時に学習した見出し、リード文、本文など意識して書くことができた。



【写真6 5年生の学習の様子】

(4) ミニ新聞・はがき新聞の作成

新聞記事の内容をより深く理解するために、ミニ新聞づくりを行った。ミニ新聞作りは、新聞から選んだ記事から疑問を見つけ、さらに調べてことをまとめて自分なりの新聞を作成した。新聞記事と学校で学習した社会や理科の学習との繋がりを見つける児童もおり、教科の学習の理解も深めることができた。はがき新聞づくりは、学習のまとめとして特に社会科の学習で行った。はがきサイズの新聞づくりなので、児童への負担も少なく、喜んで作る児童が多かった。新聞の構成を身に付けることにも役立てられた。

(5) 新聞社への投稿

新聞により親しみを持つために、南日本新聞の「若い目」欄への投稿をしたり、第10回「いっしょに読もう！新聞コンクール」へ参加したりした(5年)。いっしょに読もう！新聞コンクールは、新聞記事を読んでの自分の感想を書くだけでなく、保護者や友達など第三者にも意見を聞き、改めて自分の考えを書くことになっている。そのため、授業参観で保護者と一緒に

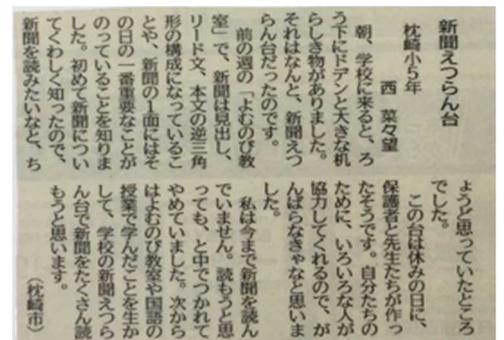


【写真7 ミニ新聞】



【写真8 はがき新聞】

取り組んだ。友達だけでなく、自分の保護者や友達の保護者、教師など様々な人の意見を聞いたことで、より深く記事について考えることができた。



【写真9 若い目への掲載】

(6) 職員研修の実施

職員のNIEの意識を高めるために、夏休みに「NIE研修」を行った。南日本新聞の方に来ていただき、回し読み新聞づくりを行った。グループで回し読み新聞を作った後に、全員で見合った。初めて実践した職員も多く、新聞を活用した活動の楽しさを感じられた。



【写真10 新聞コンクールの取り組み】

(7) 保護者への啓発

NIEへの関心を高めるため、学年PTAでNIEについての啓発を行った。資料は南日本新聞からいただいた。



【写真11 職員研修の様子】

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 以前より格段に新聞を手に取りやすい環境となったことで、すきま時間に子どもたちが新聞を読む姿が見られるようになった。
- ・ PTAとともに閲覧台を制作したり、学年PTAでNIEに関しての啓発を行ったりしたことで、新聞に対しての保護者の意識も変わりつつあるように感じる。てきぱきプレゼンは、保護者と一緒に取り組んだという児童も多かった。

- ・ ときばきプレゼンを行うことによって、社会で起きている事象に関心を持ったり、知識として知っていることが多くなったりしたように感じる。社会の学習で労働者不足や国家の情勢の話など、新聞を情報源にした話をする児童もいた。
- ・ 職員研修でN I Eに関する研修を行ったことで、職員もN I Eに対して取り組んでみたいと前向きに考えられるようになった。

(2) 課題

- ・ 新聞を活用するために、教師自身が新聞を読む時間を設けたいが、なかなか実現できなかった。
- ・ 低学年の新聞活用がなかなか進められなかった。
- ・ 学校全体としてN I Eに取り組めるように、考えていかねばならない。